

令和2(2020)年度水稻生育診断予測事業速報 No. 3  
(コシヒカリ、とちぎの星 6月22日調査結果)

令和2(2020)年6月25日  
栃木県農政部経営技術課

- ・宇都宮市で5月4日移植コシヒカリの出穂は7月28日頃の予想。  
(昨年の出穂期は8月1日)
- ・葉色が淡いほ場は中干しを実施せず、間断かん水を継続する。
- ・イネ縞葉枯病の防除を行い、いもち病の発生に注意する。

1 気象概況<<6月上旬~6月中旬(宇都宮)>>

平均気温は6月上旬が平年より3.2℃とかなり高く、6月中旬は平年より1.7℃高かった。日照時間は6月上旬が平年比150%とかなり多く、6月中旬も平年比114%と多かった。降水量は6月上旬が平年比23%と少なくなったが、6月中旬は平年比349%とかなり多くなった。

梅雨入りは、昨年より4日遅く、平年より3日遅い6月11日であった。

2 調査結果

(1) コシヒカリ(農業試験場調査結果)(表1-2)

草丈は高く(平年比126%)、茎数は多く(114%)、葉齢は0.2葉多く、葉色は0.8淡い。生育診断値(葉色×茎数)は平年比91%と小さい。

現地調査ほ場は茎数が390~657本/m<sup>2</sup>とバラツキが大きく、葉色が淡い。

イネドロオイムシは10カ所中3カ所、イネヒメハモグリバエ、葉いもちの発生は確認されていない。

(2) とちぎの星(農業試験場調査結果)(表1-2)

草丈は64cmで平年比122%と高く、茎数は738本/m<sup>2</sup>で平年比107%と多い。葉齢は9.7葉と平年並で、葉齢から判断すると、生育は平年並と考えられる。葉色は3.4で平年より1.0淡い。生育診断値(葉色×茎数)は2,531で平年比82%と小さい。

現地調査ほ場は茎数が307~515本/m<sup>2</sup>となっており、5月23日移植の栃木市も必要茎数は確保されている。

イネドロオイムシは5カ所中2カ所、イネヒメハモグリバエ、葉いもちの発生は確認されていない。

### 3 出穂予測

#### (1) 幼穂分化期

「初星」は6月20日と平年より1日速い。「なすひかり」、「コシヒカリ」及び「とちぎの星」の幼穂分化は確認されていない。

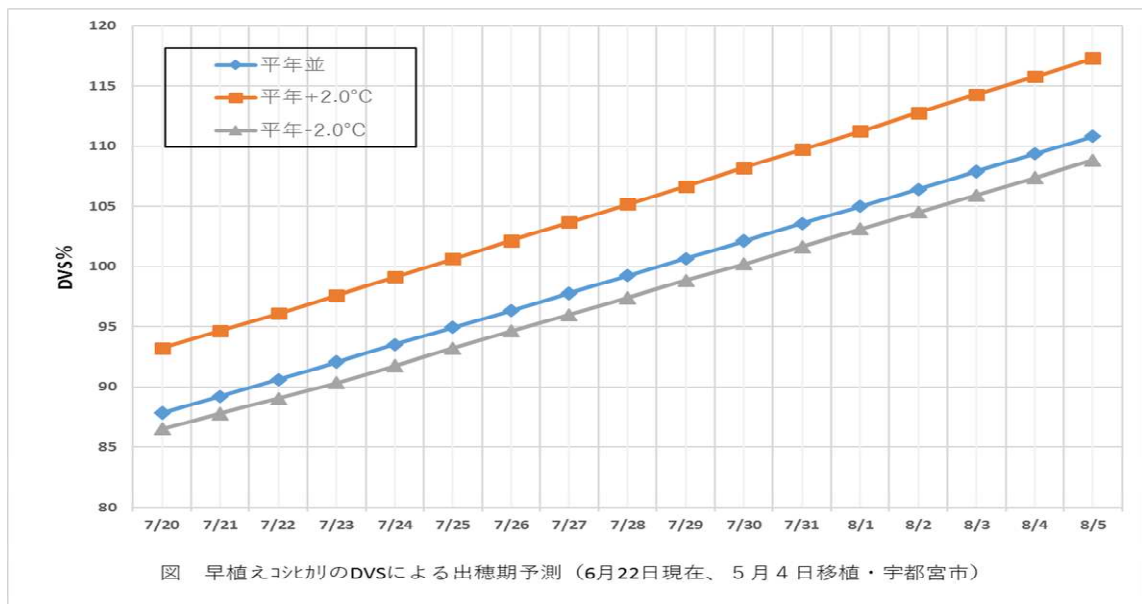
水稻品種の幼穂分化期（6月22日現在、農業試験場・宇都宮市）

	初星	なすひかり	コシヒカリ	とちぎの星
本年	6月20日	未確認	未確認	未確認
平年	6月21日	6月23日	6月29日	6月30日
昨年	6月22日	6月24日	6月30日	7月2日

#### (2) 6月23日現在の出穂期予測（宇都宮市）（図）

移植（5月4日）から6月23日までの過去10年の積算平均気温は、平年より30.8℃高かった。

今後、平均気温が平年並で経過した場合、平均気温から算出した生育ステージ（DVS値）によるコシヒカリ（5月4日移植）の出穂期は7月28日頃（過去10年の平均は7月28日、過去30年の平均は8月1日）と推定される。



### 4 技術対策

気象庁地球環境・海洋部発表（令和2年6月18日）の「関東甲信地方 1か月予報」（6月20日から7月19日までの天候見通し）では、“平年に比べ曇りや雨の日が少ない”と予想されている。気温は平年より高い確率が60%、降水量は少ない確率が40%、日照時間は平年並みと多い確率がともに40%である。天候不順にも対応できるよう、以下の点に注意して栽培管理を行う。

## (1) 水管理

5月上旬移植のほ場は、葉色が淡く生育診断値が平年より小さいことから、強い中干しは行わず、間断かん水を継続して葉色を維持する。5月中下旬移植は必要茎数が確保されているほ場では、速やかに間断かん水を開始し、必要茎数が確保されていないほ場では、引き続き、夜間かん水、日中止水（浅水）とし、分げつ発生を促進する。なお、過繁茂になると籾数過剰、登熟低下、白未熟粒の発生、食味低下を招きやすい。また、分げつが多く茎が細くなると、倒伏を助長するため、必要茎数が確保できしだい、速やかに間断かん水に移行することが重要である。

「関東甲信地方 1か月予報」では、気温は平年より高い確率が60%と予想されており、低温は予想されていない。今後、低温になった場合、深水管理により不稔を防止できるよう、畦畔の漏水チェック等、準備を進めておくことが必要である。

## (2) 病害虫の防除

### ア イネ縞葉枯病

「植物防疫ニュース（速報 No. 3）」（令和2（2020）年6月5日農業環境指導センター発表）では、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は6.1%（平年値6.8%）となっている。今後、高温の影響でヒメトビウンカが増加した場合イネ縞葉枯病の発生拡大懸念されることから、地域ぐるみでのヒメトビウンカ防除（発生の多い地域では、箱施用剤の使用＋本田での薬剤散布）を実施する。

### イ いもち病（葉いもち）

「病害虫発生予報第3号」（令和2（2020）年6月19日農業環境指導センター発表）によると、いもち病の発生予想は「やや少ない」となっている。BLASTAM（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/file/data/Blastam/2020.htm>）による葉いもち感染好適条件判定結果では感染好適条件が出現し始めている。常発地域や箱施用剤を使用していない地域では、ほ場を良く見回り、早期発見・早期防除に務める。なお、いもち病の防除は、発生前の予防剤（粒剤）施用が効果的である。また、いもち病の発生源となる取置き苗は早急に処分する。

### ウ 斑点米カメムシ類

本田内の除草及び水田周辺の草刈り（水稻の出穂2～3週間前と出穂期頃の2回）を行ってカメムシ類の発生しにくい環境を整えるとともに、出穂期以降に斑点米カメムシ類が水田内に確認できる場合は薬剤防除を行う。

※ 薬剤（登録農薬）はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、  
技術対策情報が携帯電話等に直接メール配信される  
**「とちぎ農業防災メール」の御登録をお願いします！**

併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される  
**「栃木県防災メール」の御登録をお願いします！**



↑「とちぎ農業防災メール」  
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」  
登録はコチラから